





昭和二十年五月十四日

内閣書記官長



内閣書記官長

五月十五日

可

内閣總理大臣

賞勳局總裁



陸軍准尉勲七等瀧澤靜男外七名ハ積年勲  
勞ニ依リ敍勲ノ件裁可ヲ經發令相成候處  
右ニ關シ左記各肩書ノ事由判明セル趣ヲ以テ  
各頭書ノ敍勲取消方各主管長官ヨリ上奏有  
之調査ヲ遂クルニ今更不都合ノ次第ニハ候ヘ  
共申立、通取消相成様致度此段上申ス

記



賞勳局

發令昭和九年四月七日 昭二十一年九月九日裁可上重複

敘勳六等授瑞寶章 陸軍准尉勳七等 龍澤靜男

發令同 年七月十日 昭九年五月十日戰病死

敘勳五等授瑞寶章 陸軍中尉勳六等 笠原鶴夫

發令昭和十年一月十五日 昭九年有言發令上重複

敘勳四等授瑞寶章 陸軍大尉勳五等 中嶋太多雄

發令同 年二月十日 昭八年二月十日戰死

敘勳八等授瑞寶章 陸軍伍長 出井一齊

發令同 年二月六日 内地部隊轉屬為敘勳定限不足

敘勳八等授瑞寶章 陸軍技術軍曹 森 信太郎

發令同 年二月十四日 昭和十年二月六日發令上重複

敘勳三等授瑞寶章 陸軍主計佐勳四等 佐藤秀三

發令昭和二十年二月十四日 昭和二十年二月六日發令上重複

敘勳八等授瑞寶章 第一復員官補 龍澤慶六

發令昭和二十年二月十四日 昭二十年有言集解除為敘勳定限不足

敘勳六等授瑞寶章 陸軍中尉 高野理吉



昭和十九年四月七日附  
敕勳六等授瑞寶章

右者頭書、通

陸軍准尉勳七等瀧澤靜男

十九年四月七日附

敕勳被仰出處昭和

ヲ發見セシニ付該敕勳取消方被

恐懼仰

出度 謹ミテ奏ス

昭和二十一年四月九日

第一復員大臣男爵幣原喜重郎



陸軍



第一復員省業務局扶助業務部

出書  
出書

陸軍准尉瀧澤靜雄  
勲取消件照會  
第一復員省業務局扶助業務部長  
賞勳局總裁殿  
首題ノ件ニ關シ本日一復勳第四三六號ヲ以テ當省大臣  
ヨリ手續相成候處之カ過誤ニ付調査ノ結果別紙  
理由書ノ通ニ有之洵ニ恐懼ノ次第ナカラ可然取計相  
成度及照會候  
追テ之カ取扱者ニハ夫々注意ヲ加ヘ將來ヲ篤ト戒メ  
ルニ付申添フ

一復勳第四三七號

陸軍准尉瀧澤靜雄勲取消件照會

第一復員省業務局扶助業務部長

賞勳局總裁殿

首題ノ件ニ關シ本日一復勳第四三六號ヲ以テ當省大臣

ヨリ手續相成候處之カ過誤ニ付調査ノ結果別紙

理由書ノ通ニ有之洵ニ恐懼ノ次第ナカラ可然取計相

成度及照會候

追テ之カ取扱者ニハ夫々注意ヲ加ヘ將來ヲ篤ト戒メ

ルニ付申添フ

陸軍

21.4.13



ニニ申奉ル

野由書一經ニ付テ之旨ニ照準、又第十〇回照準信尉  
ヨリ手鑑時為致意シテ過誤ニ付調査ノ結果誤差  
首題、并ニ關シ本日一發實第四三六號ヨリニ當道大五  
賞實可懸授

第一發實第四三六號ヨリニ當道大五  
賞實可懸授

陸軍部

陸軍部 陸軍部 陸軍部



一發實第四三六號



理由書

陸軍准尉勲七等瀧澤靜男

右者今次戦争ニ從軍中昭和十九年四月七日戦死同  
日進級ニ依リ是例敘勲ノ資格到達シタルヲ以テ死亡  
敘勲トシテ、手續ヲナシ發令セラルタル處既ニ終戦前  
死亡同日附發令セラレアルコトヲ發見セシニ付該敘勲ノ  
取消ヲ要スルニ至リタルモノナリ

之カ過誤ニ付調査セシ結果終戦前師管區司令部ヨリ、上申ニ依  
リ發令セラルタル處各年十二月一日師管區司令部ヨリ地方世話部ニ業務  
移管ノ際該敘勲ヲ未上申者トシテ、移管處置セシニ基因  
ルモノニシテ重複發令ヲ看ルニ至リタルハ事務錯綜セル所



ラカールツレ洲敷殺心ニ植ラリ例ニコラハハ母能諸衆ハラ先  
 茲初一察源發覺ニ米下母者トツレ一茲初一城廻ハツキ其因ハ  
 ニ發心ハレコトヲ察知ルナリ且日聖統同也心忠ニ若キヲ船遊リ其  
 ハニ發心ハレコトヲ察知ルナリ給果察覺也聖統同也心忠ニコト下母一依  
 既遊ニ助ハラス例ニシテラカールツレ一又務トナル也其後半  
 所ノ臣母氣殺心ハレコトヲ察知ルナリ且日聖統同也心忠ニ若キヲ船遊リ其  
 發覺トナル也其後半  
 母一發心ハレコトヲ察知ルナリ給果察覺也聖統同也心忠ニコト下母一依  
 右母ハレコトヲ察知ルナリ給果察覺也聖統同也心忠ニコト下母一依  
 一發覺トナル也其後半

柄トハ謂ヒナカラ洵ニ恐懼ニ堪ハサル次第ナリ



陸軍中尉 勲六等 笠原鶴夫  
 昭和十九年七月十三日附  
 敍勲五等校給賞章  
 右者頭書通敍勲被  
 昭和十九年五月十日戦病死シタルニ付判明セルニ付該  
 敍勲取消方被  
 仰步度  
 恐懼  
 謹ミテ奏ス

昭和二十一年三月二十二日

第一復員大佐 勇將 幣原喜重郎



陸軍

陸軍



復元第三回ノ事

陸軍中尉笠原鶴夫被勲取消件照會

昭和三年三月三十一日 第一復員省業務局以勲業務部長

賞勲局総裁殿

首題、件ニ関シ不日一復勲第三回九部ヲ以テ當有  
大臣ヨリ手續相成候處之ヲ過誤ニ付調査、結  
果別紙理由書、通ニ有之洵ニ恐懼、次第ナリテ  
可然取計相成度及照會候

第一復員省業務局長  
昭和三年三月三十一日



冒留  
勲業務局長  
陸  
昭和三年三月二十五日  
勲業務局長

















参

此ノニハ軍部ニハ夫ハ兵部(陸軍)ノ軍令ニ依リテ  
シテニ恐野ノ第ナリトシテ軍部ノ軍令ニ依リテ  
軍部ノ軍令ニ依リテ軍部ノ軍令ニ依リテ  
首領ノ事ニ關シ本軍部ノ軍令ニ依リテ  
軍部ノ軍令ニ依リテ

陸軍大尉勲五等 中嶋 大 多 雄  
一野 第 一 六 五 號

理由書

右者定例叙勲ノ次資格到達ニシテ以テ之カ手續ヲナシ  
發令セラルル處昭和十九年六月十日附叙勲發令セラルルコ  
トヲ發見セシ付該叙勲ノ取消ヲ要スルニ至リタルモノナリ  
之カ過誤ニ付調査セシ處内地軍部隊ト野戰部隊トノ  
通信連絡意ノ如クナラス異動報告ノ遲延ニ基因シ遂ニ  
發令者ニ對シ叙勲ヲ奏請ヤルモノニテ洵ニ恐懼ニ堪ヘサ  
ル次第ナリ











ナロニ何處ニ於テ其ノ功績ヲ見ルベシ  
ノ功績ニ於テ其ノ功績ヲ見ルベシ  
ノ功績ニ於テ其ノ功績ヲ見ルベシ  
ノ功績ニ於テ其ノ功績ヲ見ルベシ  
ノ功績ニ於テ其ノ功績ヲ見ルベシ  
ノ功績ニ於テ其ノ功績ヲ見ルベシ  
ノ功績ニ於テ其ノ功績ヲ見ルベシ  
ノ功績ニ於テ其ノ功績ヲ見ルベシ  
ノ功績ニ於テ其ノ功績ヲ見ルベシ  
ノ功績ニ於テ其ノ功績ヲ見ルベシ

陸軍部  
出井一齊



理由書

陸軍部 出井一齊

右者定例敍勲ノ資格列達シタルヲ以テ之カテ  
續クテ今ニ於テ其ノ功績ヲ見ルベシ  
ノ功績ニ於テ其ノ功績ヲ見ルベシ  
ノ功績ニ於テ其ノ功績ヲ見ルベシ  
ノ功績ニ於テ其ノ功績ヲ見ルベシ  
ノ功績ニ於テ其ノ功績ヲ見ルベシ  
ノ功績ニ於テ其ノ功績ヲ見ルベシ  
ノ功績ニ於テ其ノ功績ヲ見ルベシ  
ノ功績ニ於テ其ノ功績ヲ見ルベシ  
ノ功績ニ於テ其ノ功績ヲ見ルベシ  
ノ功績ニ於テ其ノ功績ヲ見ルベシ







陸軍技術軍需局長 陸軍省  
昭和二十一年四月九日  
第一復員省業務局長  
資力 尚 裁 殿  
首題、仲、園、本日一復員省第四三九 部ヲ以テ當有  
大臣ヨリ平續相成候處、之カ過強ニ付調査ノ結果  
別紙理由書ノ通ニ有之洵ニ恐懼、次第十口ヲ可然  
取計相成度也照會候

陸軍

一復員省第四三九部

陸軍技術軍需局長 陸軍省  
昭和二十一年四月九日  
第一復員省業務局長  
資力 尚 裁 殿

首題、仲、園、本日一復員省第四三九 部ヲ以テ當有  
大臣ヨリ平續相成候處、之カ過強ニ付調査ノ結果  
別紙理由書ノ通ニ有之洵ニ恐懼、次第十口ヲ可然  
取計相成度也照會候















申添

陸軍主計大佐勲四等佐藤秀三  
右着是例叙勲ノ資格到達シタルヲ以テ之カ手續ヲナシ發  
令セラレタル處昭和三十年八月二十六日附叙勲發令セラレアルニトテ  
弁見セシニ付該叙勲ノ取消ヲ要スルニ至リタルモノナリ  
之カ過誤ニ付調査セシニ所屬部隊ヨリ兵籍移管ニ際  
シ叙勲關係ヲ明記セサリシ為移管部隊ニ於テ資格調査  
セシ處既ニ給三等資格到達者ナルヲ以テ之カ手續ヲナシ  
發令セラレタル處旧所屬部隊ヨリ異動報告ニヨリ初メテ重  
複シタル事判明シタルモノニシテ事務輻輳セル折柄トハ謂ヒナカ  
ヲ洵ニ恐懼ニ堪ヘサル次第ナリ

陸軍主計大佐勲四等佐藤秀三  
附叙勲發令セラレタルニトテ  
一覽簿第一八五號

理由書

陸軍主計大佐勲四等佐藤秀三  
右着是例叙勲ノ資格到達シタルヲ以テ之カ手續ヲナシ發  
令セラレタル處昭和三十年八月二十六日附叙勲發令セラレアルニトテ  
弁見セシニ付該叙勲ノ取消ヲ要スルニ至リタルモノナリ  
之カ過誤ニ付調査セシニ所屬部隊ヨリ兵籍移管ニ際  
シ叙勲關係ヲ明記セサリシ為移管部隊ニ於テ資格調査  
セシ處既ニ給三等資格到達者ナルヲ以テ之カ手續ヲナシ  
發令セラレタル處旧所屬部隊ヨリ異動報告ニヨリ初メテ重  
複シタル事判明シタルモノニシテ事務輻輳セル折柄トハ謂ヒナカ  
ヲ洵ニ恐懼ニ堪ヘサル次第ナリ



上巻ニ於テ... 敬ツルヲ... カリテ... 仰出度... 恐懼

昭和三年青三附  
敬勲八等授瑞寶章

弟復員官補

瀧澤慶六

右者頭書、通叙勲被  
十年八月二十六日附叙勲發令セラレアルコトヲ  
發見セシニ付該叙勲取消方被  
仰出度

恐懼

謹ミテ奏ス

昭和三年一月九日

第一復員大臣男爵幣原喜重郎













Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a military report or official document. The text is dense and written in a cursive style.

昭和三十一年三月三日付  
叙勲大等授滿賞章

陸軍中尉 高野理吉

右者頭書ノ通叙勲被

仰岁處昭和三十一年

十月一日付召集解除トナリ叙勲定限ニ不足ヲ

生シタルニ付該叙勲取消ナ被

仰岁度

恐懼

謹ニテ奏ス

昭和三十一年四月九日

第一復員大臣男爵幣原喜重郎



陸軍



*[Faint, mostly illegible handwritten text in cursive style, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*

陸軍

一復也 凡四三〇一紙

陸軍中尉高野理吉 敬敷取有 伴照會

昭和三年四月九日

第一復面有 兼務局長 兼務部長

賞 勲 尚 慈 裁 殺

首題ノ件ニ関シ本日一復敷第四三〇一紙ヲ以テ當有

大臣ヨリ平續相成候處之カ過誤ニ付新査ノ結

果別紙理由書ノ通ニ有三拘ニ恐懼ノ次第ナラ

可然取計相成度及照會候









昭和二十一年四月九日  
第一復員大臣男爵幣原喜重郎  
内閣總理大臣男爵幣原喜重郎殿  
一陸軍准尉瀧澤静男敘勲取消件  
右進達又

一復勲第四三六號

# 敘勲取消件進達

昭和二十一年四月九日

第一復員大臣男爵幣原喜重郎

内閣總理大臣男爵幣原喜重郎殿

一陸軍准尉瀧澤静男敘勲取消件

右進達又

昭和二十一年四月九日

第一復員大臣男爵幣原喜重郎

陸

21.4.13  
勲  
向

陸

軍



一復勳方三四三九号

叙勳取消、件送達

昭和三年三月二十日

第一復勳大臣男將幣原喜重郎

内閣總理大臣男將幣原喜重郎殿

一陸軍中尉

笠原鶴夫

叙勳取消、件

右送達



四月四日  
勳叙收中一四九号

Faint, mostly illegible handwritten text in cursive style, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

陸軍



右進達

陸軍大臣

陸軍大臣 陸軍大臣 陸軍大臣

陸軍大臣 陸軍大臣 陸軍大臣

陸軍大臣

陸軍大臣

陸軍大臣



一復勲第一二八六號

敘勲取消、件進達

昭和三年三月八日

第一復員大臣男爵原喜重郎

内閣總理大臣男爵原喜重郎殿

一陸軍大尉

中嶋

太多雄

敘勲取消、件

右進達

陸軍







一復勲号四三二九并

叙勲取消ノ件進達

昭和三年四月九日

第一復員大臣男爵幣原喜重郎

内閣總理大臣男爵幣原喜重郎殿

一陸軍技術軍曹 森 信太郎 叙勲取消ノ件

右進達人



四月九日  
勲叙收市一三二号

陸軍

叙勲取消ノ件

第一復員大臣男爵幣原喜重郎

内閣總理大臣男爵幣原喜重郎殿

昭和三年四月九日

第一復員大臣男爵幣原喜重郎





右進達

一陸軍主計大佐  
佐藤秀三  
敘勲取消、件

昭和三年二月八日

第一復員大臣男爵幣原喜重郎



一復勲第二七八四號

敘勲取消、件進達

昭和三年二月八日

第一復員大臣男爵幣原喜重郎



一陸軍主計大佐

佐藤秀三  
敘勲取消、件

右進達

陸軍



二十  
二十  
二十

復勳第八五號

敘勳取消件進達

昭和三年一月九日

第一復員大臣男爵幣原喜重郎

内閣總理大臣男爵幣原喜重郎殿

第一復員大臣補瀧澤慶六敘勳取消件

右進達又



三月十五日  
録收大。号  
二月八日  
録收五六号

陸  
軍

Handwritten notes in cursive script, including names like 幣原喜重郎 and 瀧澤慶六, and dates. Includes a red seal impression.



右進達

一復勲第四三三八號  
敍勲取消ノ件進達  
昭和三十二年四月九日  
第一復員大臣男將幣原喜重郎  
陸軍大臣男將幣原喜重郎殿  
陸軍中尉 高野理吉 敍勲取消ノ件  
右進達

一復勲第四三三八號

敍勲取消ノ件進達

昭和三十二年四月九日

第一復員大臣男將幣原喜重郎

陸軍大臣男將幣原喜重郎殿

陸軍中尉 高野理吉 敍勲取消ノ件

右進達



四月九日  
勳叙牧中一六二号

陸軍







